

国語 第4学年 言葉から連想を広げて 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

一つの語から思い浮かぶことを広げ、その中から理由を添えて書く材料を選ぶ。連想を並べるだけで文章を終えない。単元の終わりに残すのは、連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)ウ	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕 (2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。

単元の目標

考えとその理由や事例との関係を理解することができる。自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとその理由や事例との関係を理解している。（〔知識及び技能〕 (2) ア）	①「書くこと」において、自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表している。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○言葉から思い浮かぶことを出す。経験と関係する語を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○理由や事例を付けて文にする。読み合って伝わり方を確かめる。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」 【めあて】一つの語から思い浮かぶことを広げ、その中から理由を添えて書く材料を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも友達はどう違う経験を思い出した。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」 理由や事例を付けて文にする。読み合って伝わり方確かめる。 連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも友達はどう違う経験を思い出した。 ・色だけでなく気持ちも思い浮かんだ。 ・理由を入れると自分の経験が伝わる。	独自例として「雨」から音・場所・気持ちを思い浮かべ、選んだ語と体験の関係を短い文で説明する。経験が出ない児童は授業内で見聞きした場面から選ぶ。 想定するつまずき：連想語だけを列挙する、友達の連想を間違いと判断する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・理由を入れると自分の経験が伝わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、連想語だけを列挙する、友達の連想を間違いと判断する。この場合は、独自例として「雨」から音・場所・気持ちを思い浮かべ、選んだ語と体験の関係を短い文で説明する。経験が出ない児童は授業内で見聞きした場面から選ぶ。おおむね満足できる状況は、自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年下巻」67行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo みえ先生ラボ

